

造成ヨシ群落内におけるコイ科魚類の産卵状況

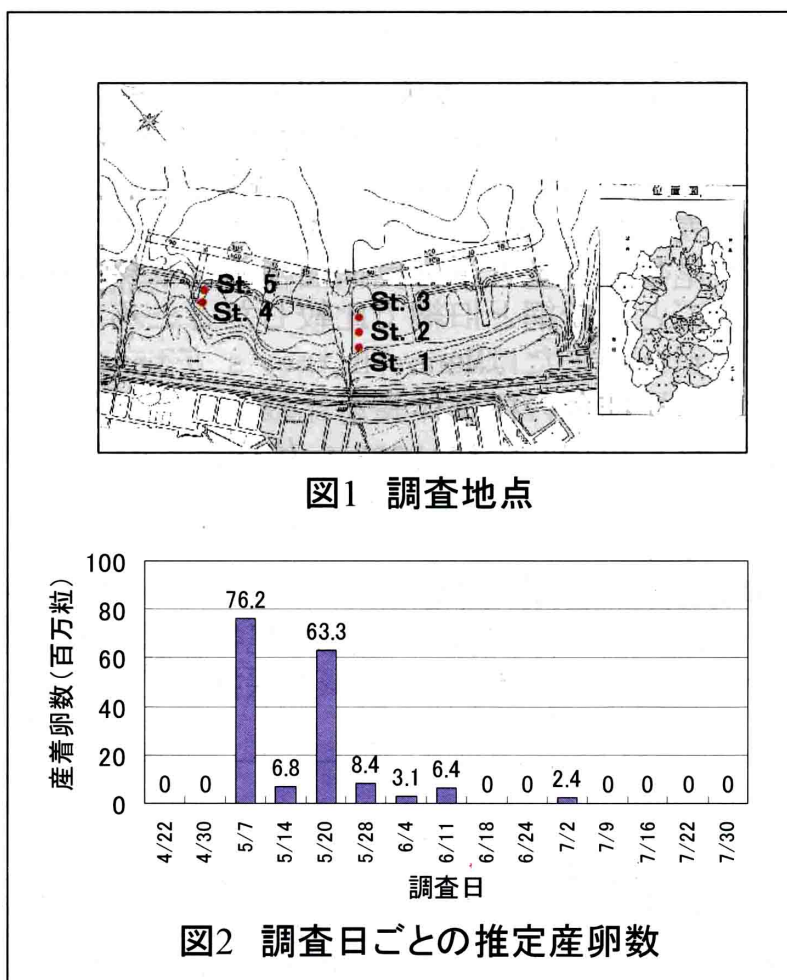
臼杵 崇広

◆背景・目的

造成ヨシ群落のコイ科魚類の産卵場としての利用状況を把握するため、新旭町地先の造成ヨシ群落内においてコイ科魚類の産卵状況調査を実施した。

◆成果の内容・特徴

- ・新旭町針江地先琵琶湖内の造成ヨシ群落に塩ビパイプの枠(50×50cm)にキンランを取り付けた産卵基体を設置(図1)し、平成16年4月30日から同年7月30日までの間、週にほぼ1回の頻度で、コイ科魚類の産卵状況を調査した。
- ・産着卵は5月7日から7月2日まで確認されたが、水温が30℃を超えた7月9日以降は確認されなかった。
- ・産卵数が多かったのは5月7日、5月20日で、推定数はそれぞれ7,621万粒、6,328万粒であった(図2)。
- ・今回の調査では、同造成ヨシ群落内における総産卵数は1億6,668万粒と推定された。



◆成果の活用・留意点

- ・造成ヨシ群落の効果算定の基礎資料とする。